Saga Women's Junior College

佐女短研究紀要　第42集：83—89，2008

連雲港職業技術学院における日本語学科の現況

虞　　建　新[1]

The Current State of the Department of Japanese Studies at Lianyungang Technical College

Yu Jianxin

はじめに

1998年，中国江蘇省連雲港市と日本国佐賀市は，中日両国に跨る徐福伝説を縁に姉妹都市協定を締結した。それが機縁となって，2005年10月に連雲港職業技術学院と佐賀女子短期大学は姉妹学校協定を結ぶこととなった。2007年５月には連雲港職業技術学院より劉潤忠学院長以下６名の訪問団が佐賀女子短期大学を訪問して，特別聴講生（通常，短期留学生と呼ぶ）及び特別研究生[2]の「受け入れのための細部相互協定」に両大の学長が署名した。この協定に従って，2007年10月より連雲港職業技術学院は留学生の派遣を始めることになったのである。初年度の派遣短期留学生数は４名，そして特別研究生１名である。

本稿では連雲港職業技術学院について，とくに本学の日本語教育の現況について報告しておきたい。

沿　　革

連雲港職業技術学院は1983年３月に創立し，中国江蘇省連雲港市に属する３年制の国立大学である。創立当初は「連雲港職業大学」と称していたが，1999年３月に現在の「連雲港職業技術学院」に改称した。現在学校の敷地は約30万㎡である。12学部，40余学科，在校生数5527人，教員数521人，その中で教授と講師が343人，博士と修士の学位取得者数は49人である。2008年９月には現在の校舎を新たな敷地へ移転することが決定しており，移転敷地面積は現在の五倍ほどになる。

中日間の交流が盛んになり，また交流が深まれば深まるほど，中国国内に設立される日本企業の工場等が拡充されることは当然予見される。そうなれば，当然のことだが高い日本語能力を持つ人材が必要とされることになる。将来的なそうした動向を予測して本学が中国の人材市場を調査した結果，2002年に日本語を養成する日本語学科（定員30名）を設置して学生を募集することにしたのである。そして今後の国内就職市場に対応するため，そして将来的な時代の要求に答え

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

るために専門課程を「商務日本語」とし，「商務」（商業）と「日本語」を併せることとした。今後，中国では多様な人材を必要とするため，大学はそのような要求を満たした多様な人材を育てなければならないという使命がある。

クラスについて

各学年１クラス制である。学生全員が江蘇省出身者で，また在籍者のほとんどが女子学生である。日本語科設置後の卒業生は総勢86人で，現在の在校生は108人である。設置後の年度入学学生数とそのクラスの卒業生数は下表のとおりである。

年度	在学生数（人）	女子学生数（人）	男子学生数（人）	卒業生数（人）
2002	23	20	3	23
2003	21	17	4	21
2004	42	38	4	42
2005	46	41	5	0
2006	21	17	4	0
2007	41	35	6	0

表を見て分かるように，2006年度の入学者数が突然半減しているのは，この年に小泉首相の靖国参拝が中国で問題視されたために若者たちの間に強い反日感情が起こり，日本語科が敬遠されたためだと考えられる。それが一転して翌2007年度になって学生数が増加したのは，任期の切れた小泉首相に代って新しく安倍首相となり，中日関係の修復を行ったために両国の友好関係が確認されたことから従来どおりの学生数に戻ったと思われる。

このように，日本語科の人気度は依然として中日間の政治的要因に左右されるという危うい位置にあるのが現状である。

科目とスケジュール

日本語科の学生には，基礎的な課目のほかに専門科目として「商務商業」と「日本語」があるが，日本語科目では「日本語精読」「日本語読解」「日本語聴力」「日本文化」「日本概況」（事情）「日本語会話」「日本語作文」「商務日本語」「日本語通訳」などがある。その具体的なスケジュールは次頁表である。

表は2005年度の教育課程表であるが，毎年学生の要求や時代の要求などに応じて調整を加えている。とくにいろいろな資格を取得させるためにも科目の調整は必要である。就職に有利なように，年に一度の「日本語能力試験」はもちろん，通訳や商務についての資格などもできるだけ受験・取得させている。本校が目指すところは学生の利益を第一に考えることで，教員は学生のために仕事をする。そして，学生は幅広く多様な知識を獲得して，卒業後は自分に適した好条件の仕事や進路を見出すことが当面の課題だと思う。そのために，教学計画は学生の利益を第一に考えて立てている。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

（一）教学計画

課程	順序	課程名	単位	教学時間					学年と学期によって分ける				
				合計	理論	実験	操作	課程設計論文	1 19週	2 17週	3 20週	4 18週	5 17週
公共基礎科目	1	思想道徳と法律	3	60	60				2×15-1.5	2×15-1.5			
	2	毛沢東思想概論と鄧小平理論	4	80	80				2*19-2	2*17-2			
	3	形勢と政策	1	20	20				6	6	4	4	
	4	体育	5	105	105				2×15-1.5	2×15-1.5	2×15-1.5	1×15-0.5	
	5	パソコンの基礎的な使い方	4	60	30		30		4×15-4				
	6	情報処理	4	72	48		24			4×17-4			
	7	大学国語	1.5	30	30				2×15-1.5				
専門の基礎科目	8	日本語精読	45	646	646				10*19-12	10*17-11	8*20-11	7*18-8	
	9	日本語読解	3	60	60						2*15-1.5	2*15-1.5	
	10	日本語聴力	10	154		154			1*(8-17)-1	2*17-2	2*20-3	2*18-2	2*17-2
	11	日本語会話	5	80		80					2*18-2	2*16-2	4*(15-17)-1
	12	商務日本語	4.5	68	68							4*17-4.5	
	13	日本語作文	1	18	18								1*17-1
専門の科目	14	国際貿易実務	3.5	50	50					3*1-3.5			
	15	通関実務	3.5	52	52								3*17-3.5
	16	国際商法	3	60	60						3*20-3		
	17	日本語通訳	0.5	12		12							4*(15-17)-0.5
	18	国際市場営業	3	44	44							3*15-3	
限選科目	19	英語	20	320	320				5*14+4*5-5	5*12+4*5-5	4*20-5	5*8+4*10-5	
	20	日本語概況	1	14	14								1*15-1
	21	日本語作文の鑑賞	1	16	16								1*15-1
	22	日本語能力試験	4	84	84								6*14-4
	23	選択授業	5	100	100								
合計		時間		2205	1905	246	54		28	30	23	26	27
		単位	135.5										

注：1．授業時間は50分間を1コマとする。

2．表中にある「2×15－1.5」とは毎週の授業時間数は2コマで，その学期は15週間の授業がある。またその授業の単位は1.5といことを表している。

3．「形成と政策」の授業には単位がなく，授業のスケジュールは各学部で決める。

4．公共基礎科目のコマ数と単位は全校同じで，専門科目は各学部で決める。総コマ数と総単位数は学校で決める。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

（二）教材

課　程	教　材	作者	出 版 社	出版時期
精読	新編日本語1，2，3，4	周　平 陳小分	上海外語教育出版社	2002年 9 月
	基礎日本語1，2，3，4	朱春跃 彭広陸	外語教学と研究出版社	2004年 9 月
読解	日本語読解教程1，2	張敬茹 劉艶平	天津南開大学出版社	2005年 9 月
聴力	日本語聴力初級教程	王淑蘭 張基温	天津南開大学出版社	2002年12月
	現代日本語聴力教程（第一冊）	孫玉林	外語教学と研究出版社	1998年 8 月
	現代日本語聴力教程（第二冊）	孫　蕾 呉支珠	上海外語教育出版社	1997年 7 月
	新編日本語聴解国際日本語能力試験問題集（1，2級）	筒井由美等	天津南開大学出版社	2003年10月
日本語概況	日本国家概況	劉笑明	天津南開大学出版社	2005年 5 月
日本語作文	大学日本語四級作文	張蘇芸 蒋魯生	天津南開大学出版社	2004年 3 月
	応用文	李慶祥	外語教学と研究出版社	2005年11月
商務日本語	新編国際商務日本語実務	張正立	天津南開大学出版社	2005年 2 月 1 版
	同時通訳	周殿清 彭暁利	大連理工大学出版社	1991年 5 月
日本語作文鑑賞	日本語文章選択文	顧偉坤	上海外語教育出版社	2003年 3 月
日本語会話	新編日本語会話	許慈惠	上海外語教育出版社	2002年 4 月
	日本語会話	編集委員会	外語教学と研究出版社	2004年 5 月
翻訳	日中，中日翻訳教程	高　寧	天津南開大学出版社	2003年10月

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

上表は2006年までに使った教科書である。2007年では新しい教科書に切り替えることにしたが，それは，旧教科書は内容が古くてかつ難しいために，学生の作文能力と読解能力との間に差が生じていたためである。そのうえ会話能力や，聴解能力，翻訳能力はかつての卒業生に較べてたいへん低下している。そういう学生の場合，就職はたいへん困難である。だから，学生の能力を全体的に伸ばすためにも教科書や教育科目などを調整している。たとえば，次のようにである。

① 聴力の授業は一年生から始める。

② 会話の授業は二学年と三学年で行う。

③ 実習[3]時間は４週間から13週間へと期間延長した。

④ パソコンを使った指導の導入。

⑤ 各学年の口語授業はすべて日本人教員が担当する。

上④については，精読の授業などではそれまでは黒板に板書しながら教科書を説明していたが，現在はパソコンを利用して「場面」を見ながら授業を行っている。学生たちにはこのほうが面白くて覚えやすいようである。そのため教員は授業前にあらかじめ講義用ファイルを作っておくことになる。聴力はＬＬ教室で行い，ときには日本のドラマを見せる。⑤については，そうすることですべての学生に日本人と交流する機会が与えられ，できる限り学生に日本語の発声雰囲気が感得できるようにさせている。

教員について

現在，本学には中国人６人と日本人１人の教員が配置されている。最初の日本人教員は2003年から2006年度まで配置された。その日本人教師は愛知県出身で，県内にある自動車会社の社員だった。日本語の教育経験がなかったためか，残念ながら学生にうまく教えることができなかった。

そして2007年９月に新たに清水という東京出身の日本語担当教師が採用された。彼は日本で小学校や中学校，そして専門学校での教師歴を持っているが，それだけでなく中国の大学でも日本語教師として４年間の教育経験を有している。彼は2004年９月から2006年７月までの３年間を淮海工学院日本語科（江蘇省連雲港市）に所属し，2006年９月から2007年７月までの１年間を南通職業大学日本語科（江蘇省南通市）に所属していた。

彼の話によると，東京で知り合った中国人留学生が学費を稼ぐために懸命にアルバイトをしてたいへん苦労している。それが機縁となって自分は中国で教えたいと思ったそうである。教師経験があり，熱心で，しかも中国語が少しできる。学生たちとよく交流するために学生たちに大変人気がある。担当科目は主として「日本概況」（日本事情），「会話」，「日本語作文」「日本文化鑑賞」である。また発音，語彙，文型，文法などもすべて教えている。学生の読む，聞く，話す，書くなどの技能も教え，授業はすべて日本語で行う。とくに類語の使い分けなどは日本語で説明したほうがわかりやすいが，学生たちが理解し難い場合は中国語か英語で説明する。このように，教育に長けた経験豊かないい日本人教師である。

そして中国人の教員は女性５人，男性１人である。教授はおらず，講師は２人しかいない[4]。６人全員が大学卒である。講師の傅秀絹は1998年７月に大学を卒業と同時に本学日本語科の教員と

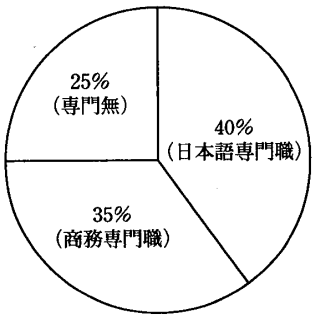
NII-Electronic Library Service

して採用された。当時はまだ日本語科がなかったため，英語科の学生に簡単な「標準日本語」を教えていた。2002年から日本語科を設置し，その年度から日本語科の学生を中心に日本語を教えるようになった。傳秀絹は2006年４月から2007年３月まで鳥取県の国際交流課に国際交流員として勤務し，本学に戻ってから日本語科の科長となっている。虞建新は1999年７月に大学を卒業した後，中国内にある日本企業で現場通訳士として４年間を勤務した。そして2003年９月から連雲港職業技術学院日本語科に講師として勤務している。楊楽絹は2004年７月に年卒業，張燕と張馨月は2006年７月に卒業，楊建新は2007年７月に卒業した。彼たちは大学を卒業してすぐ本学の教師になった。

以上の６教員は全員が師範大学卒業ではないため，採用に際して教員資格がなかったが，就職して学生に教えながら教員資格を取得した[5]。そもそもが日本語の専門教師ではないために日本語教育経験がなく，また，教員自身が日本語の知識も不十分のために学生にうまく教えられない。そのような理由から授業はだいだい中国語で行うことになる。なかには日本語口語に長けていないために日本語では授業を行えない教員もいる。学生にとっては中国語での授業は理解しやすく覚えやすいけれども，それでは日本語を実践するのは難しい。なぜなら，類語や類似語などの使い方の違いは，中国語ではうまく説明できないからである。学生にうまく教えられるように，傳秀絹と張馨月はいま大連外国語学院大学院[6]の在職研究生である。つまり，在職しながら大連外国語学院大学院で日本語の教授法について勉強しているのである。大連外国語大学院での授業は，夏休みと冬休みを利用して受講し，すべての科目試験に合格した後，次に学位試験を受けることができる。学位試験に合格してさらに論文も合格したら卒業でき，学位を取得できる。学科の将来のために全員が修士の学位を取得しなければならないと私は思う。

卒業生の就職

2006年までの卒業生が86人である。本学の就職調査によると約40％の卒業生は日本語を専門とする職場で働いている。主な就職先は中学校や専門学校の教員，企業の通訳と翻訳である。そして約35％の卒業生は商務を専門とする職場で働いている。主な仕事は貿易の仕事である。一方で約25％の卒業生は自分の専門とまったく関係がない仕事をしている。かれら卒業生は３年間を在籍したにもかかわらず，職場ではまったく日本語を必要としない販売や営業の仕事に就いた。そういう卒業生の大部分は勉強に不真面目な男子学生に多いようだ。



(2006年までの全卒業生86人を対象とした)

それでもクラスの卒業生全員が就職できたというのは，就職のための競争が厳しい現在の中国では有難いことである。かれらの給与はそれほど高くないにしても，それなりに自立はできるからだ。その具体的な数値を右表にあらわしてみた。

NII-Electronic Library Service

Saga Women's Junior College

卒業年	卒業生数	日本語と関係ある仕事をする人数	商務と関係ある仕事をする人数	他の仕事をする人数	就職率
2005年	23人	9人	8人	6人	100%
2006年	21人	6人	9人	7人	100%
2007年	42人	19人	13人	9人	100%

終わりに

中国では年々大学の規模が大きくなり，本学も例外ではない。大きくなればなるほど学生数が増大するわけだが，そうなると当然のごとく卒業を控えた学生数も多くなっていって，就職のための競争はますます厳しくなるし，それを支援する教員の労力も当然増える。競争という厳しい条件に直面すれば，学生の教員に対する要求はますます厳しくなるはずである。

そのため，今後，日本語教育がうまく運営できるように全員が本気になって頑張っている。傅秀絹と張馨月をはじめとして，全員が中国大連外国語学院の研究生として引き続き日本語の指導法を研究している。もちろん，日本語を習得するもっとも良い方法は日本へ留学することだと言われるだけに，本学の日本語の教員は全員が日本へ留学したい，日本の先生たちの講義を聞きたい，日本の知識を多く把握したいと願っている。そして今回，本学は私たち日本語の教員にいろいろな勉強の機会を提供してくれた。佐賀女子短期大学へ本学の教員を派遣したことはそうした一つの例である。

最後になるが，本学の日本語科教員たちは学生の将来のために全員が一丸となって懸命に努力している。近い将来には，中国人教員もすべて日本語で授業を行うことができるはずである。そうなれば，学生たちは本学にいながら日本の雰囲気が感じられるようになるはずだ。はやくそうなれることを願ってやまない。

注

(1) 連雲港職業技術学院専任講師日本語担当。佐賀女子短期大学特別研究生（2007年10月～2008年2月）

(2) 提携先教職員の受け入れ身分についていう。

(3) 日本語科学生の実習は，自分で見付けた職場を見学して二週間に一度，実習レポートを指導教員に提出することになっている。

(4) 傅秀絹と虞建新。中国では大学を卒業してから5年後に講師になる可能性があり，講師から5年後に副教授に昇格する可能性がある。

(5) 現在，中国ではそのような大学教員が少なくないが，それは大学師範卒業生が足りないためである。そのような場合，大学教育心理学や大学教育学などの試験に合格した上，担当する授業でも合格と判断されて教員資格が取得できる。大学教員資格については全省共通である。

(6) 大連外国語学院は1964年に創立された，中国遼寧省に属する国立の4年制の外国語大学である。創立当初は「大連日本語専門学校」と称し，1970年に「遼寧外国語専門学校」に改称，1978年に現在の「大連外国語学院」と改称した。1987年より研究生を募集し，2005年より在職研究生を募集している。

NII-Electronic Library Service